

# 共生

題字 黒木隆之

創刊号

平成23年10月1日発行

発行人兼編集人 伊東安男

鹿児島県社会福祉施設経営者協議会

【事務局】

〒890-8517 鹿児島市鴨池新町1-7

県社会福祉センター内

TEL099-257-9885 FAX 099-250-9358

## 経営協機関紙『共生』の発刊にあたって

鹿児島県社会福祉施設経営者協議会 会長 伊東安男



「鹿児島県社会福祉施設経営者協議会」は昭和59年、今から27年前に結成されました。初代会長には鹿児島市の社会福祉法人常盤会の久木元弘先生が就任されました。以来10年余にわたって会長を務められて、鹿児島県社会福祉施設経営者協議会の基礎を作られました。

その後、新平重人先生、中村邦彦先生、徳永正弘先生、松村武久先生と会長を引き継がれ、不肖私が6代目の会長を仰せつかっております。

今回、経営協の機関紙を作ろうということになったのには、いくつかの理由があります。まず第1点は、今年度設立しました『組織・財政調査検討委員会』のメンバーから、『経営協のことを多くの方は知らないのでもっと広報活動を強化して欲しい』等の要望があったこと、第2点は、経営協は、さまざまな活動をしているが、それらを一員だけでなく会員や行政・関係機関にも周知せしめる義務があるということ、第3点目に、めまぐるしく変わる福祉情報をタイムリーに伝える必要があるということ、等々の理由から発刊を考えたということがあります。年4回の季刊号として発刊し、会員や関係機関の皆様は経営協の活動を知っていただきたいと思いません。

今年は、3月11日に東日本の大震災が発いたしました。7月上旬に溝口県社協会長以下6名で、ボランティア派遣等の打ち合わせに宮城県に行っていました。その後すぐに、南三陸町のデイサービスセンターから派遣の依頼がありました。7月17日から10月6日まで約3カ月にわたっての派遣であります。1回の派遣が移動日を入れて12日という厳しい日程で、しかも、旅費等につきましてはすべて法人持ちということで、応募があるか心配いたしました。おかげさまですぐに埋まりました。その後も多くの法人から申込みいただきました。紙面を借りて御礼を申し上げます。その報告についても紙面に載せたいと考えております。

機関紙の名称をいろいろ考えましたが、福祉の理念である「ノーマライゼーション」と「ボランティア」という両方の意味合いから、言い尽くされた言葉ですが『共生』としました。題字は、今年93歳になられる大御所の黒木隆之先生にお願いしました。

また、県の西中須保健福祉部長や県社協の溝口会長からもそれぞれ寄稿をいただき、初回の機関紙にふさわしい内容になりました。

最後に、この機関紙が末永く愛読されることを祈って発刊の挨拶と致します。

鹿児島県社会福祉施設経営者協議会役員			組織・財政調査検討委員会		
会長	伊東安男	建昌福祉会	協議員	柿添信義	同仁会
副会長	松村武久	恵会	協議員	黒木隆之	隆愛会
副会長	中村邦彦	更生会	協議員	久木元司	常盤会
協議員	白鳥浄子	白鳥会	監事	上片平栄昭	正栄会
協議員	佐多京子	緑風会	監事	大友良治	敬天会
			委員長	柿添信義	同仁会
			副委員長	久木元司	常盤会
			委員	松村武久	恵会
			委員	中村邦彦	更生会
			委員	吉尾逸平	太陽福祉会
			委員	山口義幸	クローバー福祉会
			委員	肥後秀憲	恵心会
			アドバイザー	諏訪弘美	県社会福祉協議会
			アドバイザー	伊東安男	建昌福祉会

## 鹿児島県社会福祉施設経営者協議会広報紙創刊号保健福祉部長挨拶

鹿児島県保健福祉部 部長 西中須浩一



鹿児島県社会福祉施設経営者協議会の広報紙「共生」が創刊されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

貴協議会は、昭和59年創立以来、会員数も増加の一途をたどり、現在では会員社会福祉法人数も200を超えています。ますます発展される一方、日頃、県内の社会福祉法人及び社会福祉施設の安定的な経営や利用者処遇の向上等に向けて、指導援助や各種セミナー、研修等を行っていただいております。深く感謝申し上げます。

県といたしましても、県民誰もが住み慣れた地域で必要な保健・医療・福祉等のサービスを受けることが出来る社会を目指し、国や市町村と連携、協力しながら、保健・医療・福祉の各種施策の推進・充実に努めているところであります。

さて、近年、わが国の社会福祉制度を巡る環境は、介護保険制度に代表されるように、措置制度から利用者自身が主体的にサービスを選択するという契約制度への移行、規制緩和による民間営利企業等の参入に伴う事業者数の増加など、大きく変化してきております。

このような環境の中で、社会福祉法人及び社会福祉施設がその存在意義を発揮するためには、サービスの質の更なる向上、地域貢献などの公共・公益的取り組みの推進などが、今後求められることになると考えられます。

また一方で、社会福祉法人の経営者は、それらの取り組みを進めるために、サービス管理や人事管理、財務管理といったさまざまな経営管理能力が求められることとなります。

この広報紙が、県内の社会福祉法人の経営者に必要な様々な情報を提供することで、利用者の方々へのサービスの質の向上等につながり、地域にとって欠かすことの出来ない社会福祉法人及び社会福祉施設として、ますます充実・発展することを期待しております。

終わりに、広報紙の紙面の充実と関係各位の一層のご活躍並びに会員の皆様のご健勝を祈念し、お祝いの言葉と致します。

## 経営協機関紙発刊に寄せて

鹿児島県社会福祉協議会 会長 溝口宏二



県社会福祉施設経営者協議会会員におかれましては、平素より本会事業に多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。

最近の社会福祉行政においては、政府の各種会議で法人や施設のあり方についてさまざまな議論、指摘がなされており、特に社会保障と税の一体改革といった社会福祉制度の基本的な仕組みに関する成案が取りまとめられました。福祉施設を利用する人々の生活を守り、地域社会の福祉増進を図るためには、今こそ社会福祉法人がその原点に立ち返った取り組みを強力に推し進めていくことが不可欠であります。

会員の皆様にはそれぞれの地域社会において、社会福祉法人としての使命に基づき、より充実した経営を展開され、もって、豊かな福祉社会の実現に向けて日夜努力されているところです。社会福祉法人が、地域になくはない社会資源としてさらなる信頼を得ながら福祉サービスの向上に取り組まれることを期待しております。

協議会におかれては、新たに「組織・財政調査検討委員会」を設置され、新規会員加入促進を始めとする組織強化策として広報紙の発行にも取り組まれるとお聞きしました。また、東日本大震災被災施設支援活動として福祉専門職員を長期にわたって派遣されるなど、社会貢献にも努められております。今後とも、社会福祉法人が果たしている役割をアピールするとともに、わが国の社会福祉増進のため一層の貢献に努められることを望んでやみません。

最後に、会員各位のご健勝と各施設のますますの発展をお祈り申し上げて挨拶といたします。

## 『城県被災施設への応援職員派遣状況』

社協広報紙「ふくしのひろば」176号でもお知らせしましたが、県経営協では県老人福祉施設協議会の協力を得て宮城県南三の被災施設にボランティアを派遣しました。その派遣施設は次のとおりでした。ご協力有難うございました。

派遣先 南三陸町 南三陸町社協「デイサービスセンターうたつ」

派遣状況

日程	市町村	施設名	人数	備考
7/19～7/28	鹿児島市	清谿園	2名	日程は旅行日を含む。以下同じ。
7/27～8/7	始良市	さざんか園	2名	
8/6～8/17	鹿児島市	にじの郷たにやま	2名	
8/16～8/27	鹿児島市	はっぴー園	2名	
8/26～9/6	さつま町	さつま園	2名	
9/5～9/16	始良市	やすらぎの里	2名	
9/15～9/26	志布志市	賀寿園	2名	
9/25～10/6	鹿屋市	鹿屋長寿園	2名	



## 『福幸(復興)だるま』千二百個を届えました

災被災施設の復興を手助け！！ありがとうございました。

宮城県仙台市の授産施設が作製する、地元の蒟蒻を加工した「福幸だるま」の購入を願ったところ受付終了までに34の施設から1,258個の注文がありました。5個から200個までとそれぞれの購入個数には開きがありますが、被災施設の支援にとの思に開きはありません。ありがとうございました。

今回のいきさつは、7月初旬に県経営協と県社協合同による被災施設支援のための現地査の際、訪問先の施設から販売協力を要請され県経営協がとりまとめを引き受けたものです。同じ仲間として、今後とも職員派遣や物販などできる事は支援協力したいものです。



## 御礼状

この度は、平成二十三年三月十一日の東日本大震災により、我が町が見る影も空しく多大な被害を受け、大切な家族や家屋を失い、大きな悲しみにくれる毎日をお過ごししております。

しかしながら、日本全国の皆様から心温まる物資の提供や心遣いを賜り、私たちは決して一人ではない、多くの支援を受けていることを再認識し、同時に感謝と感激でいっぱいでありました。

現在は、南三陸町の復興も心の復興もすべて時が解決してくれるものと感じており、社会福祉協議会として一歩ずつ前進する所存でおりますので、今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。御礼の言葉に代えさせていただきます。

平成二十三年八月吉日

社会福祉法人 南三陸町社会福祉協議会

会長 阿部 東



## ○「数は力」

経営協の組織力を高め、要求力を強めよう

全国経営協に加入している法人の数は6,847法人ですが、これは全ての社会福祉法人の42.4%で過半数に達していません。我が鹿児島県の加入率はいくつと40.5%（205法人）で、九州ブロックでの平均は上回るものの全国平均を下回ります。

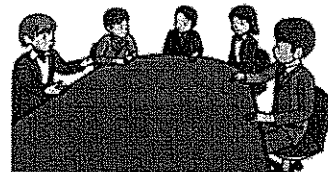
より良い福祉サービスの向上を目指すためには、より良い制度（改革）が欠かせませんが、全国社会福祉法人が一同に結集すれば、政府や地方自治体に対する要求力・発言力は盤石のものとなります。

県経営協では、この5月に「組織・財政調査検討委員会（柿添委員長、9名）」を新たに設置して、新規会員の加入促進に一層力を入れ組織拡大に努めています。なお、当面の目標は全国平均加入率に近づけ、上回ることにしています。

会員各位のご理解と呼びかけの協力をお願いします。

経営協の加入状況（23.7.27現在）

区分	法人数	会員数	%
全国	16,157	6,847	42.4
九州ブロック	3,557	1,237	34.8
鹿児島	506	205	40.5



「経営協」へ加入するとこういう利点もあります。

### 1. 社会福祉に関する情報が迅速に入手できます。

制度改革や福祉情報満載の月刊誌「経営協」、随時タイムリーな「経営協情報」が届きます。その他全国経営協ホームページの会員専用ページから諸情報が閲覧できます。

### 2. 各種セミナー・研修への参加特典があります。

全国経営協主催の各種講座（年間13本程度）に参加できるほか、県経営協主催のセミナー・会計研修（年間予定5本）に会員価格で参加できます。

※加入の申込みは、事務局まで連絡ください。

## ○事務局便り

【これまでの経営協の取組み】

月	日	行事名	場所	主な内容等
4	14	監事監査	県社会福祉センター	22年度決算
	14	役員会	〃	〃, 総会関係
	22	総会	城山観光ホテル	予算関係, 事業関係
5	9	協議員会	県社会福祉センター	総会関係
	10	総会（臨時）	城山観光ホテル	役員選任, 講演
6	1	九社連役員会	〃	予算関係, 事業関係
	10	施設指導連絡協議会	県社会福祉センター	指導実績・計画
	1	正副会長会	〃	組織財政委設置, 災害支援
7	21	拡大協議員会	アーバンポートホテル	組織財政委設置, 災害支援
	4~6	被災施設調査	仙台市	各施設, 種別協
8	14	第1回会計研修	城山観光ホテル	受講者410名
	15	災害支援対策委員会	県社会福祉センター	災害支援派遣
	22	県議会意見交換会	県議会会議室	各種別協要望
	26	災害支援派遣	宮城県南三陸町	10月6日まで連続8組
	2~	災害派遣指導	鹿児島市内ほか	事前打ち合わせ
9	3	加入促進協議会	いちき串木野市	加入促進事前協議
	8~9	九州ブロック会議	福岡市	全国経営協主催
	6	合同会議	県社会福祉センター	加入促進, 被災施設支援
9	13	第1回経営者セミナー	鹿児島サンロイヤルホテル	安全管理, 人事・賃金制度
	29~30	経営者全国大会	富山市	全国経営協主催

【これからの経営協の取組み（予定を含む）】

月	日	行事名	場所	主な内容等
10	26	災害派遣報告会	県社会福祉センター	実状報告, 感謝状贈呈
	28	第2回会計研修	城山観光ホテル	確定新会計基準
11	5	第2回経営者セミナー	〃	全国経営協会長, テンマーク在任理事長
12	1	九州セミナー	沖縄県	講演会
2	未定	第3回経営者セミナー	未定	未定
2	未定	第3回会計研修	未定	実例新会計基準

編集後記

創刊号につき一般記事のスペースが制限されましたが、次回以降、さらに有意義な記事の掲載に努めます。